歌壇

平福公　選

一席

治ります治しますとふ五人目の医師に出会へり転院重ね

埼玉県　内藤　昌子

次席

透明な空を二人で纏う午後宇宙を背にして内緒の逃避
東京都　松丸　志保

らふそくを右へ左へ御堂にも風は素足で遊びてるたり
千葉県　岡本　恵

益をどりの輪の先頭をゆく祖父の小粋な舞がまなうらに顕つ
千葉県　楠井　孝一

跡継がぬ子らを育てし兄老いて黙々と冬の葱に土寄す
埼玉県　石川　由枝

指に読む文字を失う目のくるか老いるがほどに触覚研ぎて
長野県　上原　博司

佳作

いろいろな仮面をそうと任舞ひおき時に使はむ　けふは楊貴妃
東京都　澤田加津子

隠沼に映る秋空覗き込み有頂天に立つ気分味はふ
奈良県　海山　行彦

灯の下に眉豆を摘るはかなごと農の血をひくわが老いの影
栃木県　磯　和子

「遺すのは国の借金と放射能」ジャズの流れる茶房に聞こゆ
北海道　井田美々子

障害に克つため一途なる日々も遠く過ぎれば懐かしくあり
大分県　今井　紀一

願ひごと身体健全と書き終へて写経の前に涙してゐる
茨城県　岩熊　啓子

船体に標的番号書き込まれただ処分待つ護衛艦あり
埼玉県　岩田　眞

稲作を終へと決めて空・山を畦に腰掛けしみじみ眺む
福井県　岩本　和子

爆弾の音に怯えるをさなごにあれは花火と看護師なぐさむ
茨城県　大熊佳世子

筆まめな妹の葉書き短けれどいつも笑える一行のあり
東京都　岡本　和子

「ようやっと苗字が変るのツワリなの」入籍書々の戦後の女子
群馬県　恩田　清

仲秋の大き名月を歩みとめ杖を突きつつまた振り仰ぐ
埼玉県　上堀　昭宏

冒険のなき青のあたり下れるや熟柿ともども艶めくぶだう
北海道　菊地　利春

小魚となり川底に見上げれば日の光浴びるわれが視えたり
熊本県　古賀　大介

核の無き世界は夢か広島の川にゆらゆら灯籠の火影
長野県　小林　正一

犬引きて犬にひかれて十月のひやりと涼し風と歩きぬ
熊本県　近藤　利光

吾が生れて棄てたる村のそちこちに空き家の増えて墓の憂延る
福島県　今野　金哉

ひとつ蚊の迷ひ込みたるこの部屋にけふで幾日羽音近づく
埼玉県　島崎　征介

写仏終へ出でし境内やはらかき冬日に枇杷の花しろく咲く
熊本県　下城　公秀

老いるとは不服でなく向きあふもの千年生てる屋久杉見上ぐ
富山県　正源　一枝

僧侶期けんかもなくて四十年哀れみ合っているかも知れぬ
沖縄県　多良間典男

ブロッコリーの葉に粘り付く青虫の切り絵のごとく穴を開けたり
福島県　丹治　廣子

消えそうな社民党にも手うじて代議士二人沖縄県より
広島県　延谷　春樹

ほんわかの火野正平のあつけなく人気番組置きて逝きたり
愛知県　羽下　正一

若き日の給料袋がつと過ぎる真つ新なれば薄給のにほひ
東京都　福田　桂子

値上がりにあれこれあつめ切手貼る賑やか華美のたまつさ
千葉県　間宮　清夫

飛行機の翼のやうに腕ひろげバランスの良く尻振る赤子
大阪府　光亦　一英

家出れぬ妻の脳をほぐさんと朝刊夕刊の取込み酷す
宮城県　武藤　敏子

四、五人の医師に囲まれ横たはるわれは発掘されたる木乃伊
静岡県　村松　建彦

ノーエ節刈干切唄数え歌童声手拍子下宿のコンパ
神奈川県　三井せつ子

選評

【一席】内藤昌子さん。三・四句に気持ちが込められている。詠めずに転院を重ね、素晴らしい医師との邂逅。力強い言葉に救われ、本当に良かったですね。「嬉しい！」などの感情を抑え、事実が淡々と詠まれているようだが、一筋の希望を求めての努力と喜びがひしひしと伝わってきます。

【次席】松丸志保さん。なんと大きく清々しい歌だろう。丘か小高い山の頂きにいる二人を想像。午後の二人を包んでいるのは空と宇宙。結句から周りには誰もいない二人だけの世界。かけがえのない青春の一コマが上手く詠まれている。

岡本恵さん。御堂の蠟燭の炎が左右に揺れているという誰もが目にする情景。それを「風は素足で」と捉えた下の句の感性が素晴らしい。御堂だから風も素足だが、村の子どもや大折の見えない子供たちが素足で遊んでいるのかもしれない。仏さまもきっと楽しく見ておられるのだろう。

楠井孝一さん。輪であっても全体をリードしている先頭は何となく判るものだ。先頭にたって踊っている祖父の姿に幼い子供たちが憧れていた作者。はるか昔の姿が今も浮かんでくる。作者にとって自慢の祖父だったと想像される（原作「目うら」を「まなうら」に修正。）。

石川由枝さん。何人か育てた子どもの全員が跡を継がなかったのには、それぞれの事情があるのだろう。自分の代までだと言い聞かせながら黙々と勧める兄を見て「兄さんが悪いのよ」と言っていながら、実は兄に同情し救いがっている作者の姿が浮かぶ。

上原博司さん。当たり前のことだろうが、点字を読む指先の触覚も老化することを教えられた。補助できる器具はきっとないのだろう。寂しさが切々と伝わってくる。

【佳作】澤田加津子さん。いろんな人生を味わってみたいという、微笑ましい一首。何種類の仮面があるのだろう。今日は玄宗皇帝の寵愛を一身に受けた美女、楊貴妃だ。街を歩けば道行く人が、きっと振り返って見るだろうという思い。短歌には いろんなことを想像して詠める楽しさもある。

海山行彦さん。ここでの「有頂天」は本来の意味から外れ、文字通り「頂点に有る」との解釈か。水面の秋空を天にいると、自分が頂点に立っているような錯覚にとらわれるというユニークな発見を巧みに詠まれた一首。

〈潮音〉

今号までのザブトン

13枚　上原博司
内藤昌子
10枚　内田賢一
岡本恵
9枚　袴田朱夏
8枚　青木洋子
井田普啓
古賀大介
7枚　後藤進
井田美々子
鹿島よし子
河原美恵
下城公秀
福田桂子
石川由枝
6枚　恩田清
今野金哉
芹澤和子
野中暁
原田一郎
間宮清夫
山内美絵
菊地利春
熊谷純
5枚

4枚
小林恒夫
高橋まさじ
中林祥江
西谷佐和子
藤林正則
満木好美
村松建彦
岩田眞
赤岩邦子
岩本和子
海山行彦
近藤利光
澤田加津子
島本慶徳
丹治廣子
新山英輔
延谷春樹
藤森円
堀田嘉一郎
松丸志保
眞部孝司
眞庭義夫
武藤敏子
和田山司扇

本紙読者歌壇は一席をザブトン五枚、次席を三枚、佳作を一枚として、たまったザブトンの枚数をお知らせしています。

今号ではご投稿のうちの一首が今野選の一席と平山選の次席に採られた岡本恵さんがいっきに八枚のザブトンを獲得。平山選の一席に採られた内藤昌子さんはザブトンを五枚増やされ、ご投稿の一首が平山選の次席と今野選の佳作に採られて四枚増やされた上原博司さんと並び、トップに立たれました。同じく一首が平山選の次席と今野選の佳作に採られた石川由枝さん、今野選の次席と平山選の佳作に採られた岩田眞さん、福田桂子さん、間宮清夫さんは四枚のザブトンを獲得されました。

一席に採られた方には、小社刊行の歌集・歌書より人気の一冊を贈呈。一首でも出来がよければザブトンをいっきに増やすことができます。次号もふるってご投稿いただければ幸いです。

ハガキに二首。お一人の選者に同じハガキにて選をお願いしますので、選者の指名は不要です。〆切は毎月末日。

〈編集部〉